

部門紹介

東農デイサービスセンター西館

5月に入り、若葉が目まぶしい季節になりました。

責任者 堀 智美



入社して9年目となり、年数を聞くと長く感じますが、次々と新たな目標を決め挑戦してきた事で本当にあつという間でした。東農デイサービスセンター西館に異動して2年が経ち、今年度も新入社員が入社し、また新鮮な空気が流れています。新入社員を迎え指導する事で、再度サービスの在り方を考えさせられました。

H24年4月より介護保険制度の改定があり、それに伴いサービス提供時間に変更となりました。

以前の6～8時間の提供サービス時間から7～9時間のサービス提供時間となり、デイでの滞在時間が長くなりました。

お客様がデイで過ごされる時間が長くなる事で、「ご家族様の休息」となればよいと思います。入浴・リハビリ共に時間に余裕ができ、ご利用されるお客様には、以前よりのんびりと過ごして頂けるのではないのでしょうか。

余暇の時間を生かし、充実したサービスを提供していけるようスタッフ一同意欲に満ちております。

先日勉強会が開催され「接遇」の講義を受けました。社会人として当然の内容とわかっていたものの、改めて受講し再認識をいたしました。

接客と接遇の違いは、

接客：お客様と接する事→単なる対応技術的なもの。

接遇：相手をもてなす事→思いやる、いたわる心が形になったものです。

身だしなみ・言葉づかい・態度を含めたエチケットを学び、介護業界でもお客様が評価して下さる最大のポイントだと確信しました。日々の業務に忙しく動き回っている状態では思いやりも何もなくなってしまうと痛感しました。お客様の滞在時間が長くなった事で、スタッフも心にゆとりを持ち、ご利用して下さったお客様やご家族に「不愉快な思いをさせない・楽しくなって頂く・笑顔で帰って頂ける」ように、「気配り・目配り・心配り」を心に留め、気持ちの良い対応ができるよう努力してまいります。

今後も元気な東農デイサービスセンター・西館を宜しくお願い致します。





ホムドクスクエア

胃瘻

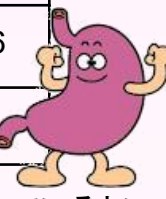


土岐内科クリニック
長谷川 嘉哉

皆さん“胃瘻(いろう)”という言葉をご存知でしょうか？高齢・認知症で食事が取れなくなったり、脳血管障害の後遺症で嚥下をする能力が失われた際に、胃に直接穴を開ける処置です。人工栄養が、この胃瘻を通じて供給されます。通常、高齢者で胃瘻を作られているケースでは、ほぼ寝たきり状態で、意識もはっきりしません。

以前勤務していた名古屋市厚生院では、入院患者さんの1/3が胃瘻でした。赴任した時には、その異様な雰囲気には驚いたものです。回診をしても、だれも自分の呼びかけに応じてくれる方は見えません。その時に、胃瘻導入から、死亡までのデータを集めました。そのデータが以下です。

	導入時の平均年齢(歳)	死亡時の平均年齢(歳)	導入期間(日)
脳血管障害	81.3 ± 8.0	84.2 ± 7.0	780.5 ± 99.6
アルツハイマー型認知症	89.1 ± 7.9 *	91.5 ± 7.3*	620 ± 96.3



このデータの意味するところは、平均80歳を超えてから、胃瘻が導入され、さらに2年近く生存しているという事です。皆さん、80歳を超えて反応もなく生き長らえたいですか？多くの方は、望まれないと思います。しかし、皆さんの強い意志がない、もしくは意志が家族に伝わっていないと、現在は入院すると胃瘻を増設されることとなります。

入院期間が短縮傾向の病院では、経口摂取の改善を見守る余裕はありません。早急に胃瘻を作っても退院してもらう必要があるのです。

日本の現状は、新規胃瘻造設患者は、年間20万人程度といわれています。すでに継続して施行されている患者数は30万人から40万人程度と推測されます。今後は、保険適応など国の方針が変わらなければ、2025年くらいまでは、高齢者が増え続けるので、同じ比率で考えると、100万人程度になる可能性があると考えられています。

もし世の中の世論が、『食事を取れなくなった人には”胃瘻“は増設しない』ということになれば、食事が取れなくなったら自然に亡くなることとなります。過激な意見と思われるかもしれませんが、胃瘻は20年程前に”障害を持った小児“のために開発された処置です。そのため昭和30年代の胃瘻がなかった時代には、8割以上の方が自宅で亡くなる事が出来たのです。また、胃瘻患者さんの数が減れば、現在の30-40万人分の介護施設・在宅サービスは不要になり、介護保険の負担も減ることとなります。

しかし現実には、反対意見が出るため、国全体で『食事を取れなくなった人には”胃瘻“は増設しない』という意見の実現は難しいと思います。

少なくとも皆さん自身と、ご家族ぐらいは明確に“胃瘻を希望しない”意志をもってはいかががでしょうか？

今月のホムドクの一言
— みなさん、元気なうちに、“胃瘻”について考えてみませんか？ —

○ストップ・ザ・ぼけ～浅野シルバースターズ～○



土岐市の老人クラブ「浅野シルバースターズ」さんが毎月開催している、脳を活性化させ、認知症を少しでも予防するため、自分たちが生きた昭和の体験を語り合う「昭和を語る会」にて、長谷川理事長が医療講演を行いました。

「アルツハイマー型認知症」の原因は、遺伝性もありますが、廃用性が主な原因です。

発症予防として、

- ①運動をする: 記憶を司る海馬の細胞を新生させる
- ②食事を意識する: 適度なたんぱく質を摂取する
- ③社会参加: 誘われたら断らない

○接遇～スタッフ勉強会～○



～当たり前を当たり前と思う、当たり前の人になろう～

株式会社ハーモネット近藤敏子さんを講師に、接遇について学びました。

「伝えるという事は、かたちにするという事です。心で思った事のかたちにしなければ皆さんにその人格は見えません。相手を思いやる気持ちをかたちにしていきましょう」

お客様の声 飯田博彬様

6月に腰骨を打って、ここ(東濃デイリハビリセンター)へ来た時には、歩行器でないと歩けませんでした。スタッフの人が一生懸命世話してくれたので、自分も同じ気持ちになり、早く治さないかんと、思いました。ここへ来て1年経ちませんが、運動して自分なりに体調が良くなった気がします。訪問リハビリの宇野さんにも家まで来てもらって、リハビリを一緒にしています。整形の先生に、治るのに3年はかかる。と言われていたのに、今こうして、杖で歩けるまでになりました。スタッフの人に感謝、感謝です。



お客様の声

東濃デイサービス東館と、東濃介護支援センターのケアマネージャーさんにお世話になりました。家にいるときは車いすでテレビを見ているだけでした。デイサービスに行くようになってからは、介護士のみなさんやケアマネージャーさんとも話ができ、また運動もさせて頂き、体調が良くなったら明るくなったように思いました。

主人が、何時もいたれりつくせり。と言っていましたから、とても満足しています。ありがとうございました。

ご遺族様より

心豊かに向き合える～人生の最期を考える～

多治見美濃焼卸センターにて、長谷川理事長が講演致しました。現在の日本では、病院で亡くなる方の割合は約78%。一方、自宅で亡くなる方の割合は約12.5%。1950年はこの割合が全く逆でした。今や「死」というものが日常から隔離された状況になっています。誰もが避けて通ることができない「死」。心豊かに向き合うために一度考えてみませんか。



ぎふ清流国体・清流大会



ブレイングループの職員(セラピスト)は、10月12日～行われる、ぎふ清流大会サッカー競技出場選手のフィジカルサポートチームの一人として参加しています！

講演・勉強会のご案内

担当者	対象者	日時	場所	内容
院長 橋本 貴至	地域の方	H24.5.19(水) 14:00～15:00	土岐市北消防署	「健診の上手な受け方」
作業療法士 加藤 郁代	関係者	H24.5.20(日)	財団法人 セラミックパーク美濃	「発達障害の基本的なとらえ方と実践」
理事長 長谷川 嘉哉	関係者	H24.7.4(水)	名古屋 アートピアホール	「日経セミナー」



土岐内科クリニック

岐阜県土岐市肥田浅野笠神町2-12

TEL 受付・外来リハビリ 0572-53-0656
FAX 受付・外来リハビリ 0572-53-0658

株式会社ザイタック

岐阜県土岐市肥田浅野笠神町2-11-1

TEL 0572-54-0201
FAX 0572-54-0378

診察時間のご案内

	月	火	水	木	金	土
9:00 ~ 12:00	●	●	●	●	●	●
13:00 ~ 16:00	訪問診療					
16:30 ~ 18:30	●	●	●	●	●	

交通のご案内



● 東濃訪問看護ステーション (訪問リハビリ)

☎ 0572-54-0355 (0572-53-1107)

● 東濃介護支援センター

☎ 0572-54-1171

● ナーシングデイ

☎ 0572-54-0355

● 東濃デイ脳リハビリセンター

☎ 0572-53-1101

● 東濃デイサービスセンター東館・西館

☎ 0572-54-1103

● 東濃デイサービスセンター松坂

☎ 0572-20-1199

● 東濃デイリハビリセンター

☎ 0572-54-1196

● 東濃デイサービスセンター元町

☎ 0572-53-1010

● 東濃デイサービスセンター滝呂

☎ 0572-43-6696